

カトリック草薙教会だより

2020年 6月号



〒424-0888 静岡市清水区中之郷2-5-12 TEL/FAX 054-345-4792

メールアドレス catholic.kusanagi@gmail.com

静岡地区公式ホームページ<http://catholic-shizuoka.jp>

<6月のスケジュール>

日	曜日	時間	祝祭日等	集い・各部活動及び内容
3	水	19:00		教会評議会
5	金		初金のミサ (清水) 非公開ミサ	
7	日		三位一体の主日 非公開ミサ	
9	火			ダルク (薬物依存症回復施設) 19:00
12	金		ミサ (静岡サレジオ) 非公開ミサ	
14	日		キリストの聖体 ミサ (ベトナム語による) 非公開ミサ	
16	火			ダルク 19:00
21	日		年間第12主日 非公開ミサ	静岡地区共同宣教司牧委員会 14:00 ~ 清水教会
23	火			ダルク 19:00
25	木		ミサ (静岡聖光) 非公開ミサ	
27	土			教会だより印刷 9:30
28	日		年間第13主日 聖ペトロ司教座への献金 非公開ミサ	教会だより配付 教会守護聖人聖パウロのお祝い 教会大掃除
30	火			ダルク 19:00

* 非公開ミサ

司祭はミサを行います但信徒は教会には来ないで自宅で心を合わせてお祈りください

<今月の清掃・花当番> 南地区

* 各月の清掃当番はゴミを持ち帰ってください。

* 清掃後、集会室の戸締り、消灯をお願いします。

<6月の典礼奉仕者>

日		先唱者	第一朗読	第二朗読	侍者	奉納
7	三位一体の主日	非公開ミサ	心を合わせてお祈りください			
14	キリストの聖体	非公開ミサ	心を合わせてお祈りください			
21	年間第12主日	非公開ミサ	心を合わせてお祈りください			
28	年間第13主日	非公開ミサ	心を合わせてお祈りください			

教会委員長より

5月17日(日)に草薙教会において静岡地区の教会委員長会議がありました。そこで、新型コロナウイルスへの対応について以下のことが決まりました。詳細については裏面に静岡教会主任司祭の和野信彦神父様の第5次のメッセージを掲載しておきますのでご一読ください。

①6月末まで公開ミサは行いません。

②6月は7月からの公開ミサの開始に向けて、聖堂の環境整備と典礼の準備を

評議員および典礼担当者を中心に行います。

なお②の具体については6月3日（水）の評議会で話し合いたいと思います。

新型コロナウイルス感染症への対応について（第5次）

＋主の平和

政府は5月14日、39県を対象に新型コロナウイルス特措法に基づく緊急事態宣言解除を表明しました。その上で、解除された県の住民に向け、「3つのお願い」（少しずつ段階的に・前向きな変化はできる限り続けてほしい・日常のあらゆる場面でウイルスへの警戒を怠らないでほしい）を提示しました。

静岡県は15日、緊急事態宣言の解除を受けて、休業要請を予定通り17日までとすることを決めました。県内の感染状況や医療提供体制を評価する6段階の警戒レベルでは県内は感染限定期の「警戒レベル3」だとし、県民に「3密」回避の徹底などを引き続き求めることにしました。

静岡地区カトリック教会は17日、こうした現状に対しての6月以降の対応（第5次）を検討するための教会委員長会議を開きました。協議の末、ミサの再開を望む信徒の声が大きいことは確かなことではあるが、「3密」を回避するための対策を十分にとる必要があるとし、聖堂内環境の整備（換気・間隔・消毒）とミサを簡素化して行う（飛沫感染の防止）ことの準備を整える時間が必要であることが確認されました。

よって、6月は7月からの公開ミサ開始のための準備期間として、各小教区においての主日には限定された信徒（奉仕者および会衆）のみにより、聖堂内環境整備状況の検証と簡素化したミサのスタイルの試行を目的とした非公開ミサを週ごとに持ち回りで行うことといたします。

また、地区内の司祭は一人は高齢者であり、また基礎疾患を持つ者もいることから一日複数回のミサ司式はリスクが大きくなる危険性があるとし、すべての小教区で毎週ミサが行われることは困難であることが予想されます。しかし、ミサのないときに司祭不在の主日の集会祭儀を行うことは「集会」でのリスクを回避することが確認されてから行うこととし、6月は各小教区での集会祭儀は行われません。

6月からのミサの再開を期待しておられた信徒のみなさまは大変残念な思いをお持ちのことと思います。しかし、それぞれの小教区聖堂の環境の整備と典礼の準備のために今しばらく時間をいただきたいと思います。

そして6月は「イエスのみ心の月」です。イエスのみ心は全人類に対する神の愛の象徴としてイエスの心臓を表し、その信心はイエスのみ心に表される神の愛を思い起こし、その無限の愛のしるしであるみ心をたたえるものとして始まりました。イエスは、愛情に燃えているみ心を示して、人々の間に欠けている冷淡な心を嘆かれ、イエス自身の愛に倣ってその心を尊ぶことを勧められました。そのイエスの愛に応え、この時節を祈りをもって乗り越えてまいりましょう。

祈りのうちに

静岡地区共同宣教司牧推進担当司祭 和野信彦

教皇フランシスコ、新型コロナウイルス感染拡大にあたっての呼びかけ

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、

大切なマリアの月、五月が少し前に始まりました。五月は、信者が聖母にささげられた巡礼地を訪れたいと心から望む月です。しかし今年は、衛生面に配慮して、信仰と崇敬の地を霊的に訪れましょう。そして自分たちの不安、希望、今後の計画をおとめマリアに伝えましょう。

祈りは全世界に共通する大切なことです。ですからわたしは、「人類のきょうだい愛のための高等委員会」からの提案を受け入れ、この5月14日を、祈りと断食と愛のわざの日とすることにしました。この日、すべての宗教の信者は霊的に結ばれ、新型コロナウイルスのパンデミック収束のために人類を助けてくださるよう神に祈ります。どうか忘れないでください。す

すべての宗教の信者全体が 5 月 14 日とともに祈り、断食をし、愛のわざを行うのです。

(「アレルヤの祈り」後のことばからの抜粋)

* * * *

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、こんにちは。

復活祭第四主日の今日は、よい羊飼い、イエスにささげる日です。福音はこのように主のことばを伝えています。「羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す」(ヨハネ 10・3)。主はわたしたちを名前と呼んでくださいます。わたしたちを愛しておられるので、名前と呼んでくださいます。一方、福音は、従ってはならない別の声のことも語っています。羊に害を及ぼそうとする見知らぬ人、盗人、強盗の声です。

さまざまな声がわたしたちの中に響いています。良心に優しく語りかけてくださる神の声もあれば、悪へと仕向ける誘惑者の声もあります。どうすれば、盗人の声とよい羊飼いの声を聞き分けることができるのでしょうか。どうしたら、悪魔の誘惑と神の導きを識別することができるのでしょうか。皆さんはこの二つの声を聞き分けることができます。実際、この二つの声は異なる言語で語りかけます。わたしたちの心の扉を違った方向からたたきます。違った言語を話すのです。言語を区別できるのと同じように、わたしたちは神の声と悪魔の声を聞き分けることができます。神の声は決して強要しません。神はご自身を示してくださいますが、押し付けることはありません。ところが悪の声はそそのかし、襲いかかり、強制します。まばゆい幻想を見せ、気を引きますが、それはつかの間のことです。まず、わたしたちをなだめすかし、自分たちは全能であるかのように思わせます。しかしその後で、空虚な心に陥れ、「おまえには何の価値もない」と罵倒します。一方、神の声はわたしたちを辛抱強く正し、つねに励まし、なぐさめます。どんなときにも希望をはぐくみます。神の声には将来への展望があります。しかし悪の声は皆さんを壁に向かわせ、隅に追いやりします。

ほかにも違いがあります。敵の声は、わたしたちの目を現在からそらし、未来への不安や過去の悲しみばかりを考えるよう仕向けようとします。敵は今現在を必要としません。苦しみをむしかえします。これまで体験した不正行為や、自分を傷つけた人々など、さまざまな悪い記憶をむしかえします。これに対し、神の声は、今現在を語ります。「今こそ、良いことができる。愛の創造力を駆使することができる。今こそ、心を縛り付けている後悔や自責の念から解き放たれる」。この声はわたしたちを力づけ、前に進ませてくれます。そして今現在を語るのです。

この二つの声は、わたしたちの心に異なる問いを投げかけます。神からの問いかけは、「わたしにとって善とは何だろう」というものです。一方、誘惑者は別の問いかけを執拗に投げかけます。「わたしにとって都合の良いことは何だろう」、「わたしは何がしたいのだろう」。悪の声はつねに自我、自分の衝動、自分の要望の周りをめぐります。すぐに全部を欲しがります。聞き分けのない子どものように、即座にすべてを欲しがります。それに対し、神の声は安易に得られる喜びを約束するものではありません。真の善、平和を見いだすために自我を乗り越えるよう招きます。どうか忘れないでください。悪は決して平和を与えません。まず興奮をもたらし、苦しみを後に残します。それが悪のやり方です。

つまり、神の声と誘惑者の声は異なる「環境」の中で語りかけます。敵は暗闇、嘘、中傷を好みます。主は太陽の光、真理、誠意ある透明性を愛しておられます。敵はわたしたちにこう言うでしょう。「自分の中に閉じこもりなさい。だれも理解してくれないし、聞いてもくれない。だれも信じてはいけない」と。それに対し、善の声は、自らを開け放ち、隠し事をせずに、神と他者を信じるよう招きます。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはここ数カ月、多くの考えや不安のために、自分自身の中に閉じこもっています。心に語りかける声に注意を払いましょう。その声がどこから来るのか自らに問いましょう。わたしたちを利己主義の囲いから救い出し、真の自由の牧草地へと導いてくださるよい羊飼いの声を聞き分け、その声に従う恵みを願い求めましょう。よきすめの聖母マリア、わたしたちが識別できるよう導き、見守ってください。